

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 11 月 12 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3890700085
事業所名	グループホーム春の風
(ユニット名)	1階
記入者(管理者)	
氏名	徳森 利弘
自己評価作成日	令和 3年 10月 10日

<p>【事業所理念】</p> <p>ここにはぬくもりがあり喜ぶがあり笑顔がある</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>長浜高校の近くにある2階建ての事業所は、ベランダから海の絶景を眺めることができる。法人は、大洲市内でグループホームのほか、障害者支援施設や高齢者福祉施設などを運営している。事業所の1階には地域交流室があり、開放的な雰囲気でも外から室内の様子が覗え、コロナ禍以前は、多くの地域住民やボランティアの方々に活用されていた。また、管理者等は地域住民が気軽に来訪できるような風通しの良い事業所を目指しており、積極的に地域との交流を深めている。さらに、コロナ禍において、外出制限等が設けられているものの、職員が持ってきた季節の花を利用者に生けてもらったり、これまでの習慣の畑で野菜づくりをしたりするなど、職員は利用者が生き生きとした生活を送れるよう支援している。毎日、少しずつでも利用者が身体を動かすことで、心身機能の維持や向上につながることを念頭に置きながら、職員はレクリエーションや体操のほか、日常動作も意識した支援に取り組んでいる。加えて、玄関を入ってすぐに掲示してある職員紹介の写真からも笑顔が溢れ、事業所の雰囲気は明るくて活気も感じられ、優しく真摯に利用者向き合う職員の姿をうかがうことができた。</p>
---	---------------------------------	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	職員が担当利用者を持つことで、利用者の気持ちに寄り添う事で把握に努めている。	○	/	◎	入居時に、職員は利用者や家族から意向や暮らし方の希望を聞き、本人の思いに沿えるような支援をしている。また、日々の生活の中で、利用者から新たに知り得た情報は、経過記録や申し送りノート等に残し、全ての職員で情報を共有できるよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	表情の変化や生活の様子等で本人の気持ちを汲み取れるように声掛けしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会に来られた際や電話で話す際に状態を報告させて頂き家族さんの意向もうかがっている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	介護日誌や経過観察記録など毎日記入し職員間で共有できている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日々の生活の様子を観察し本人の思いを汲み取れるようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居申し込みやフェイスシートなどを参考にしたり家族様から話を伺ったりしている。	/	/	◎	前回の訪問調査から、他の事業所のアセスメントシートを参考にしながら様式の見直しを行い、記載する職員にも分かりやすくなっている。事業所では、利用者の生活歴や趣味、嗜好品など、今までの馴染みの暮らしを把握できる項目を挙げて、利用者や家族から入居時等に確認し、情報を把握している。また、入居前に利用していた介護サービス事業所や施設の関係者から情報を得ることもある。さらに、介護計画の見直し時期に合わせて、6か月に1回アセスメントシートの内容を担当職員が更新をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	生活する中で利用者の状態を理解し出来る事などを見つけている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の生活の中で観察を行い記録し本人の状態を把握できるように努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	職員間で話し合い要因を見つけれよう努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	1日の流れをその都度記録し少しの変化でも周知できるようにしている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	家族様に聞いたり、情報から読みとったりしてアセスメント作成に繋げている。	/	/	◎	事前に得た情報のほか、利用者や家族の意向や希望を聞くとともに、関係者からの情報等を参考にしながら、職員間で話し合いをしている。また、利用者本人にとって、必要な支援を本人目線で検討をしている。さらに、コロナ禍において、面会制限があるため、家族がサービス担当者会議に参加することは難しく、事前に電話で意見等を聞くことが多い。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	利用者1人1人にあった支援が出来る様本人やご家族の要望を伺い支援に繋げている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	内容に沿った課題に対するサービスに繋げている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	アセスメントやケアプランに基づいた支援を行っている。				利用者や家族の意見のほか、主治医などの意見や指示を受けて、職員間で意見やアイデアを出し合いながら話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。介護計画の見直しに合わせて、アセスメントシートの情報も更新をしている。また、計画は利用者や家族の思いや意見を反映した内容となるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人や家族様からの意見を聞きそのことに沿った計画を作成している。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	今までの生活リズムが崩れないように利用者へ合った生活が出来る様に努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族会やボランティアの方の行事等も取り入れているが現在はコロナ禍ということで行っていない。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	月に1度カンファレンスを行い内容を確認し共有している。			◎	介護計画は、職員がすぐに確認できる場所に置き、毎日の経過記録に、サービス内容に沿った計画の実施などができているか、職員間で状況を確認しやすいよう工夫をしている。また、経過記録には、認知症状に関わる記録は☆印を、主訴は△印を付けるなど、利用者の言葉や状況などが分かりやすいよう記録を残している。さらに、職員の気づきやアイデアは申し送りノートの記載するとともに、申し送り時等を活用して、口頭でも情報共有をしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎日、業務日誌を記入し状況確認を行い利用者へ合った支援を行っている				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	業務日誌や経過観察記録を活用し利用者の様子を記録している				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	職員から出た案は連絡ノートに記録している				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間に応じて再度、確認を行い見直ししている			◎	要介護認定の期間に合わせて、6か月に1回を基本として、介護計画の見直しをしている。また、月1回実施するカンファレンスを活用して、利用者の状況を確認している。さらに、3か月に1回、モニタリングを行い、目標の達成状況を評価するとともに、利用者や家族の満足度も併せて確認をしている。加えて、利用者の状態に変化があった場合には計画の見直しを行い、現状に合った介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月に1回カンファレンスを行い確認している			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	家族様や主治医と連携を図り本人の状態にあった計画を作成している			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月に1回、カンファレンス、ミーティングを行い緊急時にはその都度会議をしている			○	日々の申し送りを実施するほか、月1回のミーティングやカンファレンスを活用して、職員間で話し合い、情報を共有している。また、緊急案件のある場合には、その場にいる職員で検討するとともに、話し合った内容は全ての職員に周知している。さらに、毎月のカンファレンス等に参加できない職員には、事前に意見を記入してもらうとともに、出勤時には会議録や申し送りノートを随時確認してもらい、情報を共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	各担当で提案しそのことに対し皆で話し合う事が出来ている				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	前もって会議の日時を伝えて周知できるようにしている				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	△	会議録を作成し、参加できていない職員でも内容を共有できるようにしている。回覧時には印鑑を押し必ず職員全員が確認できている。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	◎	月に1回カンファレンスを行い情報共有を行っている。連絡ノートも活用している。			○	日々の申し送りを活用して、口頭で情報を伝達している。また、職員の出勤時等には会議録や申し送りノート等を確認してもらい、確認後には押印を行い、確認漏れがないよう努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	夜間帯、日勤帯での状態報告が行えるように1日2回申し送りを行っている。	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者の思いに寄り添い、出来る事ややりたい事が出来る様に支援している	/	/	/	事業所では、外部業者に宅配してもらい食事のメニューは決まっているものの、畑で収穫した野菜の調理方法を利用者と一緒に相談しながら一品付け加えたり、利用者の好みを聞きながら、おやつを手作りしたりするなど、職員は利用者が可能な範囲で、少しでも自己決定できるように支援している。また、毎日の服装も、職員が利用者が選択しやすいよう二者択一で声かけをするなど、なるべく自分で選んでもらっている。さらに、職員が持ってきた季節の花を利用者に生けてもらったり、これまでの習慣の畑で野菜づくりをしたりするなど、職員は利用者が生き生きとした生活を送れるよう支援している。加えて、訪問調査日には数字パズルや数字を足すサイコロゲームなどのレクリエーションが行われ、職員の明るい声かけで進行されるなど、活気ある利用者の表情がうかがうことができた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	選択肢を作り選んでもらえる様声かけを工夫し支援している	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者の思いを汲み取りながら、寄り添いながら支援を行っている	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者のペースに合わせて、就寝や起床、入浴等を行っている。朝食も本人さんのペースに合わせて配膳させていただいている。	/	/	/	
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	お手伝いやレクリエーション、日常の会話等を通して生き生きとした生活が出来る様に努めている	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情の変化、雰囲気などで、思いを汲み取り利用者様に合った支援が出来る様に努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	ミーティングで人権や尊厳について学んでいる。他の職員にも互いに声かけ合って言葉遣いに注意するよう気をつけている	/	◎	○	職員が担当を持ち回りして内部研修を行い、全ての職員は、利用者への人権や尊敬の気持ちを大切にしたい言動を徹底するよう努めている。時には、あからさまなかけ声を発したり、耳の聞こえにくい利用者にも、どうしても大きな声を出してしまったりすることもあるものの、職員同士でも注意喚起をしながら、羞恥心に配慮した排泄時の声かけなどに努めている。また、職員は居室を利用者のプライベート空間であることを認識しており、ノックや声かけをしてから、入室することができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	1人1人に目配りをしその方にあった声かけをするよう配慮している	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	自尊心を傷つけないように声掛けしながら支援している	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	ノックしたり声かけをしたりして出入りしている	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	法人で個人情報保護、守秘義務について教育し厳守している	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	お手伝いをして頂いた際には感謝の気持ちを伝えている。洗濯干しや洗濯たため等を協力して頂いている	/	/	/	利用者一人ひとりの性格や関係性を把握しながら、職員は穏やかに過ごせるよう支援している。時には、利用者同士が言い合いになることもあり、職員は事前に配席などの考慮をしている。また、男性の利用者にも役割を持ってもらうことで、利用者同士の一体感が生まれている。さらに、仲の良い利用者同士が寄り添いながら支え合う場面も見られ、職員はつながりを温かく見守っている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士の関係性が自然に作られ支え合って生活している事を感じる	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	職員が間に入り利用者同士が話しやすく良い関係で過ごせるように努めている	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブル時は職員がさりげなく間に入り対応している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人や周りの方のお話でも情報を収集しアセスメントシートにて職員間で共有している				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご家族様や友人などからの情報は職員間で共有している				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	コロナ禍の為外出が難しかったが、できる範囲で対応はできている				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	コロナ禍の為面会は制限があり充分満足のいくような支援が出来なかったが感染予防に努めながら最大限の対応を行った。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	利用者様の希望に合わせて外気浴や野菜の収穫、水やりや草引きなどができる様支援している	○	△	○	コロナ禍以前は、日常的に事業所周辺の散歩や、定期的に外出行事等を行うことができていた。現在のコロナ禍において、外出制限を設けているものの、日常的にテラスに出て、海の景色を眺めながら外気浴をしたり、敷地内の散歩や畑での野菜づくりをしたりするなど、少しでも利用者が気分転換できるよう支援している。また、重度の利用者も同様に、職員は外気に触れて、季節を感じられる機会を心がけた支援をしている。さらに、事業所の近くにある昔ながらの住宅街を歩きながら、利用者は生活感を味わうこともできる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	コロナ禍の為外部の方との外出は見合わせている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	コロナ禍の為外出はできなかったが外気浴にて外の空気を吸って頂き気分転換できるように支援することができた				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	コロナ禍の為、外出は出来るだけ短く家族の方にもお願いしている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	毎日の申し送りや状態の変化等を伝達し個別に記録して情報を共有し主治医や専門医にも相談しながらその人に合ったケアができるように努めている				6か月に1回更新しているアセスメントシートを活用して、利用者一人ひとりの日常生活の動作で、できることや見守りでできそうなことなどを把握しながら、職員は手や口を出しすぎないような見守りや待つ介護に努めている。また、事業所では、ソファを置いてあるリビングと、食事をするダイニングの場所の行き来も歩行訓練の一つと捉えて、生活リハビリなどの支援もしている。さらに、毎日のラジオ体操やテレビ体操、1日2回のレクリエーションを行うなど、少しでも利用者の心身機能の維持や向上が図れるよう取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	体操、レクリエーション・歩行訓練等で筋力維持の為身体を動かしてお手伝いなどの日常生活動作で身体能力の維持、向上に努めている				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	本人が出来る事は見守りし、出来るようなことがあれば一部介助しながら行っている	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	家族様からの情報は職員間で共有している				職員は、利用者一人ひとりの趣味や得意なことを把握して、意識した支援をしている。野菜づくりや調理の下ごしらえ、包丁での柿剥きなど、利用者が張り合いや楽しみを持ちながら、日々の生活が送れるよう支援をしている。また、訪問調査日には、洗濯を職員と一緒に利用者の様子を確認することができた。さらに、職員は利用者の意欲や活気につながるような声かけを行っている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	パズルや囲碁など個人のレベルに合わせてレクリエーションを提供しお手伝いでやりがいを持って頂けるように支援している	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	コロナ禍のため文化祭、敬老会等中止になり交流が難しかったが作品作りは行った。(アマビエ)				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	髪型や服装などその人に似合ったものをアドバイスしている				職員は、利用者の整容の汚れや乱れに対して、羞恥心やプライドに配慮しながら、声かけやフォローをしている。また、重度の利用者にも、起床時におしぼりで顔を拭いてもらうほか、髪型や服装の好みなど、利用者の本人らしさを尊重した支援に努めている。さらに、訪問理美容を活用して、定期的に髪型などの整容も整えている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	家族様からの誕生日や敬老の日のプレゼントの持ち込みがあったりする				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	季節に合った物を選んで頂けるように支援している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	コロナ禍にあり行事が無く外出もできなかったため支援できていない面もあるが誕生日にはおしゃれな服で写真を撮影した。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	起床時には整容の乱れを直している。汚れたものは声掛けをしながら個別に対応している	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	特に希望はない様子で2ヶ月に1回のペースで美容店の方に来て頂いている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	ご家族様がこれまで本人が使っていた服や本人好みの服を買ってきていただき個性を大切にしている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	日常生活で、健康を保つための基本である食事の大切さを理解している。				訪問調査の前年から、食材の宅配サービスを利用しており、業者から調理された食材が届けられ、事業所内で職員が盛り付けている。事前に献立が決まっているものの、事業所の畑で収穫した野菜や家族からの差し入れを活用して、利用者や相談しながら一品付け加えることもある。誕生日や行事には、好みなどのお楽しみメニューを提供するなど、少しでも利用者が食事に楽しみが持てるような支援もしている。利用者は、食器の用意やテーブル拭きなど、決まった役割を持ちながら手伝いをしていく。食器類は、利用者一人ひとりが使いやすい物を使用するとともに、自宅から馴染みのコップや湯飲みを持参して、使用している利用者もいる。食事の際には、職員は介助や見守りを行い、休憩時間を活用して職員は持参した昼食を摂っている。また、職員は調理の手間などがなくなり、利用者や接する時間が増えたため、重度の利用者も含めて、食事の時間が楽しみになるように声かけや話しを楽しんでいる。さらに、業者の栄養士が作成した献立は、栄養バランスは取れているものの、汁物の味付けなどを事業所内で調節したり、利用者の状態に合わせて、刻みやミキサー食の食べやすい食事形態にしたりするなど、職員間で話し合いながら、臨機応変に対応している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	献立は業者委託している。厨房には段差があり、危険な為利用者との作業はテーブル席で行っている。たこ焼き、ホットケーキ作り等の下ごしらえの手伝い。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	グループホームの畑で採れた野菜の下ごしらえや筍の皮剥きを手伝っていたりしている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギーに関してはアセスメントシートやカンファレンス時に共有し把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	アレルギー等を踏まえて季節感を感じてもらえる様、旬の食材を取り入れる様にしている。つくし、筍やエンドウ、栗、芋など。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	○	咀嚼や嚥下は状態に応じて一口大、キザミ、ミキサー食にて対応し必要時にはトロミも加えている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	利用者に合わせてスプーンやお皿を変更したり一部介助でも自分で口に運んで頂けるように支援している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなくやっている。	○	職員も同じテーブルに座り食事介助をしながら目配りをして利用者のペースに合った食事ができるように支援している			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	厨房とリビング、ダイニングがワンフロアになっているためレクリエーションの時に料理の話しをしたり料理中の匂いがわかるようになっている		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者ごとに1日の食事量、水分量を記録している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事形態では一口大、キザミ、ミキサー食にて対応し必要時にはトロミを加えている。水分摂取量が少ない方には寒天を使用しお茶やジュースを固めて提供している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立は業者委託している。調理方法は湯煎や流水解凍等で行うだけの簡単なものとなっている			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	まな板や布巾をハイターで除菌し食材の鮮度に留意している。毎日周辺の清潔保持を心掛けている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	1日3回の口腔ケアに努めている。拒否のある利用者に対してはタイミングを見計らって声掛けをしている				毎食後、利用者は口腔ケアを行い、自分で歯磨き等ができる利用者を含めて、職員は口腔内の状況を確認することができている。中には、口腔内を見られるのが苦手な利用者もあり、職員はタイミングや声かけに考慮をしながら、磨き残しや異常がないかなど、状態の把握に努めている。また、口腔内に異常が見られた場合には、歯科医の往診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	食事の様子や口腔ケア時に口の中の健康状況をチェックしている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	研修などに参加して口腔ケア時に活かしている				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	夜間は義歯を外して頂き週2日ボリデントで洗浄している				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	自分でできる方も最終確認を行い、できない方はお手伝いして清潔保持に努めている			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	すぐに委託医へ相談し受診したり往診して頂いたりして対応している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	ミーティングや研修などで学習して理解している				事業所では、利用者一人ひとりの1日の排泄パターンや習慣を把握して、職員は声かけやトイレ誘導を行い、可能な範囲でトイレで排泄ができるように取り組んでいる。また、利用者の状態や希望に合わせて、随時状況を確認しながら、適切な紙おむつやポータブルトイレなどを使用できるように支援している。さらに、新たに紙パンツやパッドなどを使用する場合には職員間で話し合い、家族に確認の上で使用している。加えて、男性用の便器が設置されているトイレもある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	影響を理解し職員は排泄チェック表を確認して排便コントロールを行っている				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	利用者の排泄パターンによりトイレ誘導の声掛けの時間を見計らっている				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	体調に合わせてその時に合った状態で支援している	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	日々の申し送りやカンファレンス等で相談し報告している				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	トイレに行かれた時間や排泄の有無をしっかりと記録して失敗ないように支援している				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	意思疎通の困難な方はカンファレンス等で話し合いご家族様にも相談している				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	業者とも相談し昼用、夜用と使い分けている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分摂取時にむせ込みのある場合はトロミ使用しお茶が進まない方には本人の好みの飲み物を家族様と相談して提供している				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	入浴は曜日が決まっているが2階に一般浴が設置しており個別支援する事も出来る		◎	○	週2回を基本として、利用者は入浴することができる。入浴回数など、利用者の状態や希望に応じて、職員は柔軟に対応をしている。また、1階の浴室は広く、入浴用のリフトの設置があり、利用者の状態に合わせて、安心安全な入浴を支援している。中には、2階にある個別浴槽を利用して、「ゆっくりと1人で入浴したい」という利用者があり、職員は声かけをしながら安全確認を行っている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	本人の体調に合わせて声掛けし入浴していただいている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	声掛けしながら自分で出来る所はして頂き見守り付き添いは随時行っている				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	入浴を別日にしたり時間をずらしたりしている。入浴されていない時は足浴や全身清拭にて対応している				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	毎朝、健康チェックにて体調を確認している。入浴後にも水分補給時に声かけなどを行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	1人ひとり24時間、記録に落としている				事業所では、24時間の経過記録を確認しながら、利用者一人ひとりの睡眠状態を把握している。中には、認知症状の進行などから眠れない利用者もあり、周りの利用者に影響がないように、主治医に相談しながら、服薬をすることもある。また、利用者の状況に応じて、昼寝なども支援している。さらに、事業所では極力睡眠導入剤に頼りすぎないように努めており、日中の過ごし方や対応などに配慮しながら、夜間に良眠できるよう総合的な支援にも取り組んでいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中活動に参加して頂き昼夜逆転しない様留意している				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	毎日、体操、レクリエーション等を行っている。医師と相談しながら眠剤や安定剤を検討している			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	体調に合わせて居室静養して頂いている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人の希望があれば電話を掛けたりして家族とお話しをしてもらっている				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	本人が出来ない場合は職員が電話をかけ声を聴いたりしてもらっている				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	居室に子機を持って行きお話しをしてもらっている				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙は本人に直接手渡し音信がとれるようにしている				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族様には協力を依頼し電話などをかけて頂けるようお願いしている				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を所持する事使う事の意味大切さを理解し支援している				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	現在、コロナ禍により買い物には外出することが出来ないが落ち着けば機会を持ちたい				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	現在、コロナ禍により買い物に行くことが出来ないが広告などを見てもらい理解力を維持できるよう努めている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と相談し必要に応じて使える様に支援している				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	必要時には家族と相談している				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	毎月、手紙を送る際に出納帳コピーを同封し家族にも確認してもらっている				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時々々の状況ニーズに合わせて支援している。家族様との情報交換も大切にしている	◎	◎	事業所では、既存のサービスのみにとらわれず、その時々々の利用者や家族にとって、「何が一番良いのか」を念頭に置くとともに、利用者や家族の希望に応じて、職員が考えながら、柔軟に対応をしている。また、コロナ禍で外出制限等はあるものの、外部サービスのマッサージや、家族との外出などにも、対応をしている。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関にベンチがあり、ひだまり新聞やパンフレットを置いて誰でも読んだり持ち帰りができるようにしている	◎	◎	◎	事業所の玄関扉はガラス製で明るく、事業所内の様子を覗くことができ、来訪者は声をかけやすい雰囲気となっている。また、きれいに手入れされた家庭菜園や畑の様子が外部からも見え、親しみや清潔さを感じることができる。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	リビングには季節に合った壁画を飾ったり写真や新聞を掲示している	◎	○	◎	共用空間は全体的に明るく、柔らかいトーンの色彩でまとめられている。テレビを見ながらくつろぐリビングと、食事をするダイニングスペースを使い分けることで、利用者の生活にメリハリが感じられるよう支援できている。また、トイレや浴室などの共用部分は清掃や消毒等が行き届き、清潔さを感じることができる。さらに、事業所内に花を飾るなど、季節に合わせた装飾を施している。加えて、空気清浄機や除菌装置が設置され、快適な空間となっている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎朝、晩と掃除を行っている。換気も必要に応じて行っている。眩しくないようにカーテンも利用する。					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	天候の良い日には窓を開ける事で風を感じたり、景色や音を聞いたり眺めたりできている					◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	他者との交流を大切にしながら本人の意思を尊重し居場所の工夫をしている					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	介助に入る際には他者には見えない様に扉を開め対応している					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	テレビや安楽椅子、テーブルなど自宅で使いたれた物を持参して頂いている。	◎		◎	居室には、自宅で使用していた家具や雑貨を持ち込むことができる。家族の写真を飾ったり、使用しやすい位置に家具を配置するなど、利用者に合わせて居心地の良い居室づくりに努めている。また、居室の壁紙はブラウン調でまとめられ、落ち着いた空間となっている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	洗濯物干しや洗濯物たため、テール拭きなど出来る事をお願いして役割意識とやりがいを感じてもらっている			○	事業所では分かりづらく混乱しないように、利用者の目線に合わせて、トイレや居室の案内、ネームプレートなどを設置する工夫をしている。また、洗面台は、リビングやダイニングから、利用者がすぐ見える場所に設置されている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	トイレの表記や居室には名前を表示する事により混乱の解消に繋げている					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌、塗り絵道具等は手の届く所に置きいつでも使えるようにしている					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	年に4回の身体拘束適正化委員会を開催し職員全員が弊害について学習し理解に繋げている	◎	◎	◎	全ての職員は、鍵をかけて行動が制限される弊害を理解しており、日中には玄関や各ユニットの入り口は施錠されていない。夜間のみ、防犯のため、玄関等の施錠をしている。また、帰宅願望や不安感のある利用者には、職員と一緒に外に出て、歩きながら気分転換をもらったり、落ち着いたような声かけをしたりするなど、臨機応変に対応している。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族と相談し必要に応じて対応している					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関には人感センサー、扉には開くと音が鳴るセンサーを設置して鍵をかけずに対応している					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	介護計画作成時等にアセスメントを作成して把握に努めている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎朝、健康チェックを行っており異常があれば記録や申し送りを行っている。必要に応じて病院受診も支援している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	主治医や訪問看護師が来所された時以外でも電話にて相談している				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	主治医に相談しながら、本人や家族が希望する医療機関へ受診できるように支援している	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人や家族と相談しながら適切な医療を受けられるよう支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診が必要な際には家族へ連絡し合意を得ている。受診結果は速やかに電話にて報告している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院する際に本人のストレス軽減ができる情報を病院関係者に報告している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院関係者との情報交換や相談を密に取れるよう努めている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	入院や受診をした際に挨拶を行い日頃からより良い関係づくりに努めている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	2週間に1回主治医に往診に来て頂く。1週間に1回訪問看護師に来ていただき些細な事でも相談し助言を頂いている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間いつでも主治医に連絡が取れる体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日々の状態記録、毎朝のバイタル測定にて早期に発見できるようにしている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	連絡ノートやカンファレンスにて随時確認を行い理解に繋げている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	薬箱とお薬カレンダーを使用し何人ものスタッフで確認している。服薬の際は声出し確認にて事故防止に繋げている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	毎日、1日の状態の観察を行いいつもとは違う変化があれば主治医に相談している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	往診時の情報として記録した内容を報告したりカンファレンス等で話し合ったりしている				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	その時の状態に合った方針を職員間で共有している。本人や家族の思いを傾聴している	/	/	/	事業所には、「看取りケア指針」があり、入居時に利用者や家族等に説明するとともに、状態変化時に合わせて、家族等にも、再度終末期に事業所として対応できることを説明している。また、終末期など、家族や利用者が希望する過ごし方や最期の迎え方などの意向を聞き、同意を得ている。さらに、状態の変化に応じて、利用者や家族を中心に、主治医、職員、関係者を交えて話し合い、方針を共有しながら、利用者が穏やかな終末期を迎えられるよう支援をしている。看取り支援後には、家族から感謝されることも多い。加えて、医療行為が必要になるなど、病院へ転院する利用者もいる。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	主治医・訪問看護師・医療機関に本人や家族の思いを伝え支援内容の方針を皆で考えている。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	どこまでどのような支援が出来るのかを職員と話し合い見極めている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	事業所の力量をその都度伝え理解を得ている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	安心して頂けるような支援の出来る体制を整え利用者がその人らしく最期を迎えられるように家族や他職種とも連携を図っている	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族様との会話の中で思いを汲み取り寄り添えられるよう支援を行っている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	本部の年間研修や衛生委員会、ネットでの研修に参加し感染症の知識を深めカンファレンス等で発表している	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	練習は実施していないが感染症のマニュアルを作成している。マニュアルに沿った対応で備えている	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	最新情報を外部から入手し早めの対策を取ることで予防に努めている	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	情報収集を行い感染症の予防や対策に努めている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は手洗い、うがいマスクを徹底している。玄関にマスク、アルコール消毒液や問診票を設置体温をチェックし来訪者の清潔保持に努めている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	職員は日頃から信頼関係を築いており何かと気軽に双方が相談して一緒に本人を支えている	/	/	/	現在のコロナ禍において、面会制限が設けられているため、家族が事業所の行事に参加することを中止している。コロナ禍でも、屋外から窓越しで十分な間隔をとって面会に対応するとともに、県の感染対策の緩和に伴い、事業所では訪問調査月の前月の10月から制限を設けた上で、居室等での利用者と家族の面会を再開し、喜ばれている。また、毎月「ひだまり新聞」を発行して、利用者の事業所内での日常の様子を伝えるとともに、担当職員が書いた手紙を添えて、家族に送付している。さらに、コロナ禍以前は家族会を開催し、交流をすることもできていた。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	現在は面会の予約を家族に取って頂き時間を決め来訪時に問診票を記入して頂く。また、緊急事態宣言中は、窓越し面会にてコロナ対策を徹底していた。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	希望される方はコロナ対策での取り決めを行い散歩や外出を行っているが食事作りや行事は家族様とは行えていない。	/	○	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	各担当職員が利用者の様子を毎月お便りに記入してお伝えしている、ホーム内の様子が分かる新聞も同封している。	/	◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	電話連絡や家族の面会時に生活の様子や身体の状態などの情報をお伝えしている	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	来訪時等に情報交換を行い本人や家族の意向を把握し支援体制を構築している	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	各担当職員が毎月お便りに記入し情報を提供している。毎月送付するホームの新聞にも掲載している。	/	○	◎	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	現状ではコロナ対策の為、家族同士の交流の機会の提供は難しい状態	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	職員間や上司と意見交換をしリスクを伴う状況があれば家族に説明して対応している	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族様にお便りや電話連絡などの情報提供を通して来訪時に気軽に相談して頂けるように努めている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	所長、リーダーにより資料をもとに理解して頂けるように説明している	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	グループホームでの生活が困難になり退居となる際は家族や医療機関と充分に話し合い説明し納得いただいている	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	重要事項説明書に訂正明記し書面で改正点がわかるようにしている。また、変更事項説明書を作成し配布した上で納得いただき同意を得る様になっている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	設立前より地域に向いて事業所の目的や役割について説明し理解を得て頂けるように努めている	/	○	/	コロナ禍以前は、事業所として、地域住民や近隣の保育園児、高校生と交流する機会があり、地域との交流を深めることができていた。また、事業所1階には地域交流室があり、地域住民にも開放して、気軽に使用することができるなど、法人・事業所として、地域における公益的な取組みが行われている。さらに、地域住民から、コロナ収束後には早期の地域交流室での活動の再開が待たれている。加えて、現在のコロナ禍において、中止となったフェスタや地域行事が多いものの、地域の中に事業所は浸透しており、地域住民から野菜の差し入れをもらうなど、可能な範囲で地域との交流を継続している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	日常生活で近隣を散歩する時は挨拶するように心掛けている。また、コロナ対策により地域などの行事は参加を見合わせている。	/	×	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	避難訓練時には地域の方にも参加して頂き見守り支援を頂いているが増えてはいない。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	地域交流室があるがコロナ対策のための交流の機会を見合わせている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	近隣の方々とあいさつを交わしている。また、地域交流室の横のトイレを気軽に使用いただいている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナ対策の為、地域交流室でボランティア等の発表や交流の場は中止している	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	コロナのため、毎年招待して頂けるように生活文化祭の出展や見学を見合わせているが作品は完成させている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	コロナの為、毎年招待して頂いている。敬老会や生活文化祭は中止され学校関係運動会の交流も無観客となっている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	コロナ対策の為利用者、家族の参加を中止している。推進メンバーにより短時間で感染対策を行い実施している。	○	/	○	運営推進会議は、利用者や家族、民生委員、高校の校長、保育園の園長、市担当者等の参加を得て、開催をしている。現在のコロナ禍において、利用者や家族の会議への参加は制限しているものの、地域の感染状況に留意するとともに、感染対策を図りながら、他の参加メンバーで会議を開催している。また、会議では利用者の状況や事業所の行事等を報告するとともに、参加メンバーと意見交換をすることができている。さらに、運営推進会議の中で出された意見やアドバイスは、職員間で情報を共有して、可能な範囲でサービス向上に活かしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	現状、活動の報告、研修報告、ヒヤリハットの報告を中心に報告している。また、身体拘束適正化委員会を兼ねて行ってたがコロナ対策の為別に会合を持っている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議では意見交換や助言を受け記録に残している。必要時ミーティング等の場で伝達している。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	毎回、最終火曜日14時からと設定する事で日程調整しやすくしている	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	議事録を大洲市へ毎回ファックスにて報告している。職員にも閲覧できるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	年間研修により、理念についてのテーマを取り上げ職員全員に周知している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	玄関の入り口正面や、地域交流スペースなど来訪時に見えやすい場所に掲示している。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	地域密着型サービス協会の研修や法人内研修などによりスキルアップできるよう取り組んでいる。	/	/	/	事業所では、内部や外部の研修で学ぶ機会があり、職員のスキルアップや、サービスの質の向上につながっている。また、法人・事業所として、職員の産休や育休などの取得や、福利厚生にも努めるなど、安心して仕事を続けることができる働きやすい職場環境づくりも整備されている。さらに、法人・事業所には職員の意見を吸い上げられる仕組みができており、管理者等が検討して、法人としても対応できるようになっている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月行うカンファレンスの中でテーマを決めて担当者が資料を作り発表し1人1人のスキルアップに努めている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	各職員が目標管理シートを作成し、チームの目標を明確にし、向上心を持つように努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域密着型サービス協会 地域病院の研修などにはコロナの影響で参加できないがグループホームの連絡会の情報交換で各施設の取り組み状況などの情報共有できる。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	各部署の代表者を集めた所長会に参加して意見をもらったり対応して頂いている。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	ケアカンファレンスなどで資料を点検し理解している	/	/	/	職員は研修等で虐待防止を学び、理解をしている。また、利用者への虐待や不適切なケアについて、具体的にどのような行為が該当するなどを確認するとともに、不適切な行為が発見された場合の対応方法も職員に周知されている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	カンファレンスや職員ミーティングで話題にしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	研修などで理解し、不適切と思われる行為には本人に注意し改めてもらう様になっている。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日報などでチェックして適切なアドバイスをして頂いている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束適正化委員会(3カ月に1回)の資料などを回覧して周知徹底を図っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	毎日のミーティングでも現状を検討し最適の方法で対応している	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	電話や面会時に説明しその都度理解して頂いている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	成年後見人制度は現に利用されている方も理解できている				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	対応が必要と思われる利用者家族に対し家族と相談し情報提供している				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	後見人制度利用者は1名。連絡や面会などは密に行なわれている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	急変のリスクが高い方に関しては特別に対応、別書き出して目につく場所に掲示しスムーズに対応できるようにしている				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的に行われているが消防署や本部での研修に参加して皆に周知している				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	小さなことでもヒヤリハットにまとめて閲覧し職員間で情報共有し再発防止へ取り組んでいる				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	カンファレンス時に個人個人について詳しくチェックをして対応を検討したり朝のミーティングや夕方の申し送りでも様子を細かく伝えて事故防止に繋げている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルはないが年に2回苦情処理委員会を行って、外部や他部署の意見を求め会議録により参考になっている				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	現在の所苦情は寄せられていないが苦情対応一覧に基づき苦情が寄せられれば対応を検討していく				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	ヒヤリハットや事故報告書を基に速やかに家族様へ内容や対応を行い職員へも再発防止を求め徹底している				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日頃の仕草や発言に注意してその都度声掛けし対応をしている			◎	日々のかかわりの中で、利用者の意見や要望を聞くほか、職員の気づきや、利用者の表情から汲み取ることもある。家族からは、職員が随時電話連絡を行い、意見を聞くよう努めている。また、日頃から管理者は現場で職員と一緒に業務に従事しており、職員の意見や提案を聞きながら対応をしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	家族会や電話での相談に応じられる体制はあるが家族会はコロナ禍の為開催できていない	◎		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約時に説明してから重要事項説明書をお渡ししている。掲示板にも掲示している				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	ほぼ定期的に来所され職員や利用者との交流をされている。2ヶ月に1回程度。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	毎日のミーティングや職員が多く集うカンファレンス認知症専門研修時に皆の意見を求めより良い対応を検討している			◎	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価結果により課題をスタッフ全員に周知しカンファレンスやミーティングにて取り組みを行っている	/	/	/	外部評価の自己評価は、ユニット毎に管理者を中心に作成している。サービスの評価結果は、職員間で課題等を話し合い、目標達成計画にも取り組んでいる。また、評価結果は運営推進会議で報告しているものの、取組み状況のモニターの活用までには至っていないため、今後は家族や会議の参加メンバーにサービスの評価の取組みを理解してもらうとともに、モニターの協力を呼びかけたり、目標達成計画の取組み状況を随時報告をしたりするなど、意見を取り入れながらサービスの質の向上につながることを期待したい。さらに、利用者家族等のアンケート結果から、サービス評価の取組みに、十分な家族の理解が得られていないことがうかがえるため、今後は、理解が得られるような報告などを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価結果を基に現状の把握と課題への取り組みを明確にして対応している	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価結果を踏まえ実現可能な目標を作成して取り組んでいる	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進メンバーには外部評価の結果について、理解して頂いている	x	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	ケアカンファレンスや運営推進会議などで報告し成果を確認している	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	まだまだ改善する点はあるものの最新の情報を取り入れ取り組んでいる	/	/	/	年に数回、日中や夜間帯などを想定して、避難訓練を実施している。また、安全で迅速に利用者が避難できるよう、事業所の避難場所を職員間で検討して、事業所の近隣にある長浜高校に許可を得て、避難できる状況となっている。さらに、訪問調査月の翌月には地域との合同訓練も予定されており、より具体的な災害時の避難方法の話し合いや、協力支援体制が整備されることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	消防署立会いのもと主に夜間想定での様々な災害を想定して訓練を実施している。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	業者による定期点検を行っている。非常食、備蓄水についても期限内に消費している	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	長浜高校を避難場所として裏門より2階へ外階段を通って避難できる様、校長先生と話し合い許可を頂いた	○	◎	◎	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	日中であれば長浜高校生も避難への協力が得られるとの事で合同での避難訓練、消防署立会いのもとに行う予定がある	/	/	/	
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	コロナ禍の中、十分な活動は出来ていないがチラシ作成など来所者に見て頂けるように準備はしている	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談があれば応じる事が可能、対応が困難な場合は市への相談に繋ぐ事としている	/	x	○	事業所では、市行政や地域包括支援センター、他の事業所等と普段から情報交換を行い、連携を図ることができている。コロナ禍の収束後には、管理者は、「地域交流室での活動を再開するとともに、さらに地域のケア拠点として、地域住民が気軽に来訪して相談できるような事業所を目指していきたい」と考えている。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	コロナ禍の中で終息すれば地域交流室を活用していく	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	長浜高校生4名の職場体験を実施する予定がある	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	市のグループホーム連絡会に参加して市や他事業所との情報交換を行い連携を密にしていたがコロナ禍で中止となり書面や電話、ファックスにて情報を頂き活動している。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 11 月 12 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3890700085
事業所名	グループホーム春の風
(ユニット名)	2階
記入者(管理者)	
氏名	徳森 利弘
自己評価作成日	令和 3年 10月 10日

<p>【事業所理念】</p> <p>ここにはぬくもりがあり喜ぶがあり笑顔がある</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>長浜高校の近くにある2階建ての事業所は、ベランダから海の絶景を眺めることができる。法人は、大洲市内でグループホームのほか、障害者支援施設や高齢者福祉施設などを運営している。事業所の1階には地域交流室があり、開放的な雰囲気でも外から室内の様子が覗え、コロナ禍以前は、多くの地域住民やボランティアの方々に活用されていた。また、管理者等は地域住民が気軽に来訪できるような風通しの良い事業所を目指しており、積極的に地域との交流を深めている。さらに、コロナ禍において、外出制限等が設けられているものの、職員が持ってきた季節の花を利用者に生けてもらったり、これまでの習慣の畑で野菜づくりをしたりするなど、職員は利用者が生き生きとした生活を送れるよう支援している。毎日、少しずつでも利用者が身体を動かすことで、心身機能の維持や向上につながることを念頭に置きながら、職員はレクリエーションや体操のほか、日常動作も意識した支援に取り組んでいる。加えて、玄関を入ってすぐに掲示してある職員紹介の写真からも笑顔が溢れ、事業所の雰囲気は明るくて活気も感じられ、優しく真摯に利用者向き合う職員の姿をうかがうことができた。</p>
---	---------------------------------	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	本人や家族様との会話にて把握できるように努めている。	○	/	◎	入居時に、職員は利用者や家族から意向や暮らし方の希望を聞き、本人の思いに沿えるような支援をしている。また、日々の生活の中で、利用者から新たに知り得た情報は、経過記録や申し送りノート等に残し、全ての職員で情報を共有できるよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	家族様にも伺いながら本人の意思に添える様検討している	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時や電話にて話しを伺い「本人の思い」に近づける様努めている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	会話の中や生活の様子から得た情報は記録に残し共有できている	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	言葉で思いを上手く伝えられない方は特に発言や仕草など細やかな状態観察に留意している	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	ご家族様に協力して頂いてこだわりや馴染みのある物を持って来ていただいている。面会時や電話等にて多くの情報が得られるように努めている	/	/	◎	前回の訪問調査から、他の事業所のアセスメントシートを参考にしながら様式の見直しを行い、記載する職員にも分かりやすくなっている。事業所では、利用者の生活歴や趣味、嗜好品など、今までの馴染みの暮らしを把握できる項目を挙げて、利用者や家族から入居時等に確認し、情報を把握している。また、入居前に利用していた介護サービス事業所や施設の関係者から情報を得ることもある。さらに、介護計画の見直し時期に合わせて、6か月に1回アセスメントシートの内容を担当職員が更新をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	カンファレンスやミーティング、申し送りをしスタッフ間で情報交換し有する能力の現状把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	表情や仕草、常に目配りし様子観察に努めて情報共有している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	スタッフ間で話し合い、情報を共有し把握に努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	24時間のおおよその様子を一覧表に記入し、誰が見てもわかるようにしている。詳細は個人記録に入力している	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	グループホームでの状態に限らず家族様や面会に来てもらう方からも情報収集し本人の視点で検討している	/	/	◎	事前に得た情報のほか、利用者や家族の意向や希望を聞くとともに、関係者からの情報等を参考にしながら、職員間で話し合いをしている。また、利用者本人にとって、必要な支援を本人目線で検討をしている。さらに、コロナ禍において、面会制限があるため、家族がサービス担当者会議に参加することは難しく、事前に電話で意見等を聞くことが多い。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	ケアカンファレンスや毎日のミーティングで日々の状態観察や収集した情報をもとに検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	明らかになった課題をケアプランに盛り込んでいる。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人の思いを尊重し居心地よく安心して生活が送れるように支援している	/	/	/	利用者や家族の意見のほか、主治医などの意見や指示を受けて、職員間で意見やアイデアを出し合いながら話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。介護計画の見直しに合わせて、アセスメントシートの情報も更新をしている。また、計画は利用者や家族の思いや意見を反映した内容となるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	往診や訪問看護、家族の面会時に時間を設けそれぞれの意見やアイデアを伺い介護計画に反映させて頂いている	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	家族様や面会に来て頂いた方から情報収集し慣れ親しんだ暮らし方に近づける様、支援している	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族様には協力して頂いているがコロナ禍もあり地域の協力は可能な限り得られるように努めている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	毎月ケアカンファレンスを行い、スタッフ間での情報を共有し計画内容、支援上の注意事項を把握し理解できるようにしている	/	/	◎	介護計画は、職員がすぐに確認できる場所に置き、毎日の経過記録に、サービス内容に沿った計画の実施などができているか、職員間で状況を確認しやすいよう工夫をしている。また、経過記録には、認知症状に関わる記録は☆印を、主訴は△印を付けるなど、利用者の言葉や状況などが分かりやすいよう記録を残している。さらに、職員の気づきやアイデアは申し送りノートの記載するとともに、申し送り時等を活用して、口頭でも情報共有をしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎日のモニタリングを記録する項目があるわけではないが日々の記録でカンファレンスを元にケアプランの評価をモニタリングしている	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	入居情報一覧表、経過観察記録(個別記録)を毎日記入し支援内容がわかるようにしている	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	入居者様の一覧表個別記録を記載しておりスタッフの気づきケアを行いどうだったかを記入している	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	介護計画の期間に応じて見直しを行っている	/	/	◎	要介護認定の期間に合わせて、6か月に1回を基本として、介護計画の見直しをしている。また、月1回実施するカンファレンスを活用して、利用者の状況を確認している。さらに、3か月に1回、モニタリングを行い、目標の達成状況を評価するとともに、利用者や家族の満足度も併せて確認をしている。加えて、利用者の状態に変化があった場合には計画の見直しを行い、現状に合った介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月に1回カンファレンスを行い必要な場合には見直しを行い現状に合った計画作成を行っている	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	心身状態や暮らしの変化が生じた場合、現状に合った計画を新たに作成している	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月のカンファレンス、毎日の申し送りを行う事で課題を解決する為の話し合いを日常的に行っている	/	/	○	日々の申し送りを実施するほか、月1回のミーティングやカンファレンスを活用して、職員間で話し合い、情報を共有している。また、緊急案件のある場合には、その場にいる職員で検討するとともに、話し合った内容は全ての職員に周知している。さらに、毎月のカンファレンス等に参加できない職員には、事前に意見を記入してもらうとともに、出勤時には会議録や申し送りノートを随時確認してもらい、情報を共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	スタッフ1人1人が発言できるようにしている。発言に対して意見交換を行っている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	側近での目視が必要な入居者様の安全を考慮し一人でも多くのスタッフが参加しやすいよう2階フロアで会議を行っている	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	職員全員で情報共有できるよう職員ミーティング会議録を作成し参加できなかった方にも分かるようにしている。すぐに共有しないといけないことは口頭で伝えている	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	情報伝達すべき内容は毎日のミーティングで申し送りを行っている。また、伝達する内容に対して申し送りノートを活用している。	/	/	○	日々の申し送りを活用して、口頭で情報を伝達している。また、職員の出勤時等には会議録や申し送りノート等を確認してもらい、確認後には押印を行い、確認漏れがないよう努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	毎日ミーティングを行い申し送りを行っている。また業務日誌もあり出勤時には必ず目を通すようにしている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	日々思いに寄り添い出来る限り叶えられるよう努力している	/	/	/	事業所では、外部業者に宅配してもらい食事のメニューは決まっているものの、畑で収穫した野菜の調理方法を利用者と一緒相談しながら一品付け加えたり、利用者の好みを聞きながら、おやつを手作りしたりするなど、職員は利用者が可能な範囲で、少しでも自己決定できるよう支援している。また、毎日の服装も、職員が利用者が選択しやすいよう二者択一で声かけをするなど、なるべく自分で選んでもらっている。さらに、職員が持ってきた季節の花を利用者に生けてもらったり、これまでの習慣の畑で野菜づくりをしたりするなど、職員は利用者が生き生きとした生活を送れるよう支援している。加えて、訪問調査日には数字パズルや数字を足すサイコロゲームなどのレクリエーションが行われ、職員の明るい声かけで進行されるなど、活気ある利用者の表情がうかがうことができた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	可能な限り自己選択自己決定できるような声かけの支援を行っている	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自己選択、自己決定できる力には個人差がある為入居者様の状態に合わせて声掛けの工夫をしながら支援を行っている	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	起床、就寝、食事、入浴の時間やタイミングは日によって違い常に観察に努めながら支援している	/	/	/	
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	日常生活で体操やレクリエーションを多く取り入れることで刺激のある環境を提供し、笑いあふれる雰囲気作りにも努めている。	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	意思疎通の困難な入居者様にも表情の変化や仕草を見逃さず不快感や苦痛が軽減できるように支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	入居者様の人権や尊厳を尊重し排泄の失敗をされても嫌な気持ちにならないような声かけ態度を心掛けている。	/	◎	○	職員が担当を持ち回りして内部研修を行い、全ての職員は、利用者への人権や尊敬の気持ちを大切にしたい言動を徹底するよう努めている。時には、あからさまな声かけを発したり、耳の聞こえにくい利用者にも、どうしても大きな声を出してしまったりすることもあるものの、職員同士でも注意喚起をしながら、羞恥心に配慮した排泄時の声かけなどに努めている。また、職員は居室を利用者のプライベート空間であることを認識しており、ノックや声かけをしてから、入室することができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	△	配慮しながらの声掛けに努めているが難聴の方が多くすべての入居者様への配慮が行えていない場合もある。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	○	入浴時は、タオルで隠し羞恥心に配慮している。排泄の失敗時には不安が残らないよう支援している	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室する際は「ノックや「失礼します」など声かけをしている。難聴の方の場合には肩に触れて声かけを行っている	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	法人全体の研修を徹底しており教育がしっかりと行われている	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	「出来る事」に重点を置きお手伝いをして頂いた際には感謝を述べている。また、昔の話をよくして頂いている。昔からある「生活の知恵」等、教えて頂いている。	/	/	/	利用者一人ひとりの性格や関係性を把握しながら、職員は穏やかに過ごせるよう支援している。時には、利用者同士が言い合いになることもあり、職員は事前に配席などの考慮をしている。また、男性の利用者にも役割を持ってもらうことで、利用者同士の一体感が生まれている。さらに、仲の良い利用者同士が寄り添いながら支え合う場面も見られ、職員はつながりを温かく見守っている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士の関係性を見守っているがトラブルになりそう時は職員が中立に入る。ムセ込みあった時には優しく背中を撫でて言葉をかけられる利用者もいる。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらい場面をつくる等)。	◎	利用者様同士の人間関係等に注意しトラブルが起こる前に職員が仲裁に入るよう配慮している。孤立しないように声掛けをしている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルの際には互いの話を聞いた上で仲裁に入っている。その時の言葉遣いや表情に注意し不安や支障にならないように配慮している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居者や家族、ケアマネージャー、病院、施設等から情報収集をして把握している				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居者や家族、友達等から情報収集を行っている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ禍の為外出は自粛しているが電話などで対応している。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	コロナ禍の為面会は制限中だが、予約を取り対応している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	コロナ禍のため外出は制限中だが、ホーム周辺の散歩やベランダでの外気浴は楽しんで頂いている	○	△	○	コロナ禍以前は、日常的に事業所周辺の散歩や、定期的に外出行事等を行うことができていた。現在のコロナ禍において、外出制限を設けているものの、日常的にテラスに出て、海の景色を眺めながら外気浴をしたり、敷地内の散歩や畑での野菜づくりをしたりするなど、少しでも利用者が気分転換できるよう支援している。また、重度の利用者も同様に、職員は外気に触れて、季節を感じられる機会を心がけた支援をしている。さらに、事業所の近くにある昔ながらの住宅街を歩きながら、利用者は生活感を味わうこともできる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	コロナ禍のため自粛中				
		c	重度の利用者も戸外で気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。	○	コロナ禍の為外出は自粛しているがテラスがあり天気の良い日には屋外で過ごせる環境がある				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	コロナ禍の為外出は自粛しているが一定のルールで支援している。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	グループホームでの研修を行い理解できている。また日頃の様子を職員間での情報共有に努め問題をいち早く解決できるようアイデアを出し合っている				6か月に1回更新しているアセスメントシートを活用して、利用者一人ひとりの日常生活の動作で、できることや見守りでできそうなことなどを把握しながら、職員は手や口を出しすぎないような見守りや待つ介護に努めている。また、事業所では、ソファを置いてあるリビングと、食事をするダイニングの場所の行き来も歩行訓練の一つと捉えて、生活リハビリなどの支援もしている。さらに、毎日のラジオ体操やテレビ体操、1日2回のレクリエーションを行うなど、少しでも利用者の心身機能の維持や向上が図れるよう取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	毎日の体操やレクリエーション口腔体操に参加していただくことで健康維持を図っている。また歩行訓練や散歩等で下肢筋力も維持できている				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	衣類の着脱や食事摂取等出来ることはしていただいている。また、その他自分でできることは手や口を出さない様に見守りしている	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	水やりや草引き洗濯たたみやお盆拭き等で役割を持てるようにしている。また、手紙を書いたりぬり絵などを支援している				職員は、利用者一人ひとりの趣味や得意なことを把握して、意識した支援をしている。野菜づくりや調理の下ごしらえ、包丁での柿剥きなど、利用者が張り合いや楽しみを持ちながら、日々の生活が送れるよう支援をしている。また、訪問調査日には、洗濯を職員と一緒に利用者の様子を確認することができた。さらに、職員は利用者の意欲や活気につながるような声かけを行っている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	体操やレクリエーションへの参加を促し入居者同士がサポートし、はり合うことで喜びや楽しみを見つけて頂けるように一人ひとりの出番を作る取り組みを行っている	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	コロナ禍の為外出は自粛しているが地域の文化祭に出展できるように準備している。(留守など)				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	毎朝起床時に身だしなみが整えられるよう支援している。入浴後や普段からも整えるようにしている。	/	/	/	職員は、利用者の整容の汚れや乱れに対して、羞恥心やプライドに配慮しながら、声かけやフォローをしている。また、重度の利用者にも、起床時におしぼりで顔を拭いてもらうほか、髪型や服装の好みなど、利用者の本人らしさを尊重した支援に努めている。さらに、訪問理美容を活用して、定期的に髪型などの整容も整えている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	個人の持ち物には愛着があり入居前に使用していたものを出来るだけ持参して頂いている	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	スタッフが一緒に考えアドバイスすることもあるが基本的には入居者様の望まれる支援を行っている	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	入居者様の意見を尊重し必要時には家族に相談している	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	プライドを傷つけないようさりげなく声かけて支援している	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外出は自粛しているが美容師さんに協力依頼をし訪問で髪を切ったり髪を染めたりしていただけるように配慮している	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	理美容師さんに来ていただいて散髪をお願いしている。本人が持参されている服を選んでもらったり家族にも相談しながら支援している。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	人間にとって1番の楽しみであることを念頭に置き支援している	/	/	/	訪問調査の前年から、食材の宅配サービスを利用しており、業者から調理された食材が届けられ、事業所内で職員が盛り付けている。事前に献立が決まっているものの、事業所の畑で収穫した野菜や家族からの差し入れを活用して、利用者と一緒に一品付け加えることもある。誕生日や行事には、好みなどのお楽しみメニューを提供するなど、少しでも利用者が食事に楽しみが持てるような支援もしている。利用者は、食器の用意やテーブル拭きなど、決まった役割を持ちながら手伝いをしている。食器類は、利用者一人ひとりが使いやすい物を使用するとともに、自宅から馴染みのコップや湯飲みを持参して、使用している利用者もいる。食事の際には、職員は介助や見守りを行い、休憩時間を活用して職員は持参した昼食を摂っている。また、職員は調理の手間などがなくなり、利用者との接する時間が増えたため、重度の利用者も含めて、食事の時間がよくなるように声かけや話しを楽しんでいる。さらに、業者の栄養士が作成した献立は、栄養バランスは取れているものの、汁物の味付けなどを事業所内で調節したり、利用者の状態に合わせて、刻みやミキサー食の食べやすい食事形態にしたりするなど、職員間で話し合いながら、臨機応変に対応をしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	台拭きや御膳拭きを手伝っていただいている	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	食器拭き御膳拭きを手伝っていただいている	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	1階2階スタッフともに利用者のアレルギーを把握している	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	施設で採れたキュウリやトマト、ピーマン等を調理し食べていただいている。もうすぐ落花生が採れる。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	その人に合った調理を工夫しているがキサミ、ミキサー食の方が増えてきている	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	家族にも協力して頂き、出来るだけ使い慣れた物を使っていたい	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	スタッフと一緒に食事をとる事は少ないが、食べやすいよう支援している	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	楽しい食事の時間にしていただけるよう雰囲気作りを大切にしている	/	◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	無理のない様その日の入居者様の状態を見て摂取して頂いている。水分摂取量をチェックしている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分摂取の少ない人には飲み物を換えるなど工夫をして対応している	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立は業者委託し栄養管理をしてもらっている	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	衛生管理の重要性や食材の保存方法は身につけている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	誤嚥性肺炎にならない様に口腔ケアをし、口の中が清潔であるよう努めている	/	/	/	毎食後、利用者は口腔ケアを行い、自分で歯磨き等ができる利用者を含めて、職員は口腔内の状況を確認することができている。中には、口腔内を見られるのが苦手な利用者もあり、職員はタイミングや声かけに考慮をしながら、磨き残しや異常がないかなど、状態の把握に努めている。また、口腔内に異常が見られた場合には、歯科医の往診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアを確実にを行い口の中の状態の把握に努めている	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	二宮歯科と連携を取りアドバイスを受けている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	週に2回ボリデント洗浄を行っている	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	口腔ケアを徹底し、口腔内の状態を把握し、異常に早急に気づいて往診の依頼をしている	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	気づいたら歯科に連絡し相談している。必要であれば往診を依頼している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	夜間はオムツ対応の方でも日中はリハパン、パットで対応しトイレでの排泄が出来るように心がけている	/	/	/	事業所では、利用者一人ひとりの1日の排泄パターンや習慣を把握して、職員は声かけやトイレ誘導を行い、可能な範囲でトイレで排泄ができるように取り組んでいる。また、利用者の状態や希望に合わせて、随時状況を確認しながら、適切な紙おむつやポータブルトイレなどを使用できるように支援している。さらに、新たに紙パンツやパッドなどを使用する場合には職員間で話し合い、家族に確認の上で使用している。加えて、男性用の便器が設置されているトイレもある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	精神面だけではなく身体にも影響がある為薬や腹部マッサージ等で対応している	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	チェック表、日中、夜間の記録を見て把握している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	入居者様の状態を見て入退院等でADLの低下がみられる方でもトイレでの排泄を促すため日中リハパン、パット使用にて対応している	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	主治医等相談し、内服薬を調整したり、移乗の際マッサージ等を行っている	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	日誌などの記録を見て1人1人の排泄間隔を確認し声かけを行っている	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	今まで使っていなかったタイプのもを使用するにはご家族に相談し検討している	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	1人ひとりのその時の状況によって使い分けしている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	機能訓練、体操など定期的に取り組みながらなるべく自然排便を促している	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	現在は週に4回月、火、木、金と1ユニットごとに行っている。個人の希望は各スタッフが確認している	◎	/	○	週2回を基本として、利用者は入浴することができる。入浴回数など、利用者の状態や希望に応じて、職員は柔軟に対応をしている。また、1階の浴室は広く、入浴用のリフトの設置があり、利用者の状態に合わせて、安心安全な入浴を支援している。中には、2階にある個別浴槽を利用して、「ゆっくりと1人で入浴したい」という利用者があり、職員は声かけをしながら安全確認を行っている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	個人の状態の把握に努め快適に入浴できている	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	ご自身で出来ることはして頂いている。安心して入浴できるように努めている	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	拒否原因の把握、理解に努め翌日にしたり、午後声をかけたり無理強いない様に対応している	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	夜間帯の記録、健康チェックを確認し入浴の可否を相談している。入浴後もドライヤー水分補給時等に様子観察している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間帯の覚醒状況、睡眠状況を把握している				事業所では、24時間の経過記録を確認しながら、利用者一人ひとりの睡眠状態を把握している。中には、認知症状の進行などから眠れない利用者もおり、周りの利用者に影響がないように、主治医に相談しながら、服薬をすることもある。また、利用者の状況に応じて、昼寝なども支援している。さらに、事業所では極力睡眠導入剤に頼りすぎないように努めており、日中の過ごし方や対応などに配慮しながら、夜間に良眠できるよう総合的な支援にも取り組んでいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	昼夜逆転している入居者様の方でも日中活動に参加して頂けるように工夫している				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	入居者様の精神状態を専門医や主治医との連携を図り適度な支援をしている			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	必要な方は午前、午後と静養して頂いている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	希望があった際には本人の希望に沿って対応している				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	自分の名前や簡単な内容にすることで少しでも意思疎通が出来るように工夫している				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	コードレス電話機で居室でも話しやすいような空間づくりをしている				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	本人に見てもらい居室に飾っている				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	本人の不穏時等ご協力の電話をすることを理解して頂いている				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	スタッフ一同理解している				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	買い物に行くのが難しい為必要なものは職員がまとめて購入している				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	近所にあるスーパーや商店に声かけし春の風フェスタのポスターを貼らせていただいた事がある。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	ご家族様の協力のもと日用品の買いだしなどでのお金を預らせて頂いている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	ご家族様の希望も有り金庫にて保管している				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	預かったお金は必ずその時に預かり金帳に記入し領収書をお渡ししている				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	1人1人に合った生活支援をし、住みやすい環境づくり、人間関係を築いていけるよう支援している	◎		◎	事業所では、既存のサービスのみにとらわれず、その時々々の利用者や家族にとって、「何が一番良いのか」を念頭に置くとともに、利用者や家族の希望に応じて、職員が考えながら、柔軟に対応をしている。また、コロナ禍で外出制限等はあるものの、外部サービスのマッサージや、家族との外出などにも、対応をしている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(3)生活環境づくり											
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	誰が来られても入りやすいよう自動ドア設定しハンフレット等置いている	◎	◎	◎	事業所の玄関扉はガラス製で明るく、事業所内の様子を覗くことができ、来訪者は声をかけやすい雰囲気となっている。また、きれいに手入れされた家庭菜園や畑の様子が外部からも見え、親しみや清潔さを感じることができる。		
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	住みやすさを重視し各居室は個人が親しんだ物を置いている。共同スペースは雰囲気合ったものを設置することで心地良い空間になるよう努めている	◎	○	◎	共用空間は全体的に明るく、柔らかいトーンの色彩でまとめられている。テレビを見ながらくつろぐリビングと、食事をするダイニングスペースを使い分けることで、利用者の生活にメリハリが感じられるよう支援できている。また、トイレや浴室などの共用部分は清掃や消毒等が行き届き、清潔さを感じることができる。さらに、事業所内に花を飾るなど、季節に合わせた装飾を施している。加えて、空気清浄機や除菌装置が設置され、快適な空間となっている。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎朝、掃除をし清潔に、光が気になる場合には視界に入らないよう隠すなどしている					◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	毎月その月にあった壁画を飾ることで生活感を感じられるようにしている						◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	昔話を広げたり居室で静養中でも音が聞こえたり刺激になるよう工夫している						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	使用中は扉を閉め内部が見えないような素材を使用している						
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	本人が自宅で使われていた物や写真を置かれることで安心し過ごしやすい空間づくりをしている	◎		◎	居室には、自宅で使用していた家具や雑貨を持ち込むことができる。家族の写真を飾ったり、使用しやすい位置に家具を配置するなど、利用者に合わせて居心地の良い居室づくりに努めている。また、居室の壁紙はブラウン調でまとめられ、落ち着いた空間となっている。		
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	トイレや居室が分からなくならない様それぞれ場所に張り紙やネームプレートを作っている				○		
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	混乱や失敗があった時にはすぐにスタッフ間で話し合い今後の対応に気をつけている						
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	利用者の目の届く場所に置ける物は置き活動意欲を感じてもらえるよう工夫している						
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	玄関や出入り口に鍵をかけず常に気楽な生活を送ってもらえるようにしているが徘徊のある利用者がある為気をつけている	◎	◎	◎	全ての職員は、鍵をかけて行動が制限される弊害を理解しており、日中には玄関や各ユニットの入り口は施錠されていない。夜間のみ、防犯のため、玄関等の施錠をしている。また、帰宅願望や不安感のある利用者には、職員が一緒に外に出て、歩きながら気分転換をもらったり、落ち着いたような声かけをしたりするなど、臨機応変に対応している。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	全利用者家族に安全を第一に考えた時施錠をすることの理解は得ている						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	玄関に鍵をかけていない分、来訪者が来られても分かるように感知式センサーを設置している						

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	個人情報シートを確認し把握している				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日のバイタルチェックや日常の検温をし異変があった時にはすぐに記録に残している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	往診時や日頃から些細なことでもコミュニケーションを取ることで気軽に相談できる良好な関係を築いている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人のかかりつけ医や医療機関の把握をしサポートできるようにしている		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人や家族の希望をふまえてグループホームのかかりつけ医としてコミュニケーションを取り医療が受けられるように支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診、通院の前後には必ず家族様に報告し状態を把握して頂いている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	グループホームでどのような不安があったかどの様な対応が良かったか等本人のストレスや負担の軽減できるよう影響のないよう情報提供している				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院担当者と常に連絡を取り現状把握に努めている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	入院時の情報交換や交流を図ることで良好な関係作りを行っている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	週に1回訪問看護があり、利用者様の状態、薬の変更などを伝えている。些細な体調の変化なども相談している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	夜間の急変時等かかりつけ医に連絡し相談の上指示を仰いでいる				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日々の申し送りスタッフ同士の報告、連絡相談の上で早期発見・治療に繋げている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	往診時薬の変更がある場合には必ずスタッフ間で申し送り、ノートなどで伝えあっている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬介助時2名のスタッフにて名前確認の上、呼びあけ誤薬を防ぐようにしている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	薬に置いて副作用が少しでもみられる際は医師に相談している。医師の許可の上こちらで利用者の状態を見ながら調整している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	日々の利用者個人の記録に残し週に1回訪問看護師に報告、往診時に医師に詳しく伝えるようにしている				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	グループホームで看取りを希望されるのか、状態変化していく中での治療方針等家族様と話し合っている。家族と医師の橋渡しにもなれるよう努めている	/	/	/	事業所には、「看取りケア指針」があり、入居時に利用者や家族等に説明するとともに、状態変化時に合わせて、家族等にも、再度終末期に事業所として対応できることを説明している。また、終末期など、家族や利用者が希望する過ごし方や最期の迎え方などの意向を聞き、同意を得ている。さらに、状態の変化に応じて、利用者や家族を中心に、主治医、職員、関係者を交えて話し合い、方針を共有しながら、利用者が穏やかな終末期を迎えられるよう支援をしている。看取り支援後には、家族から感謝されることも多い。加えて、医療行為が必要になるなど、病院へ転院する利用者もいる。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	◎	家族の気持ちや方針は変化しやすくその都度スタッフ間で共有しかかりつけ医にもお伝えしている	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	終末期の利用者の細かい変化の相談グループホームで出来る支援の助言等をしてもらっている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	グループホームで出来ること医療機関ではないとできないことを家族様にもお伝えをしている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	家族の方の希望があればグループホームでの看取りを行っている。今までにもそのようなケースがある。今後も職員のスキルアップを目指し経験を積みながら体制を整えている	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	情報交換を行っていく中で家族の事情背景も考慮しながら気軽に相談してもらい関係を築いている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	出勤時には必ず検温している。体調面等不安のある際は所長かリーダーにお伝えしている。感染症の研修にも参加している	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染マニュアルを作成している。汚物処理の際に必要な物品が用意してある。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	職員同士の細やかな情報交換を行いカンファレンスの際にも話し合いを行っている	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	いつ発生してもパニックにならないよう、定期的にインターネットや新聞などで確認作業を行っている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	出勤時、介助後には入念な手洗いをしている。アルコール消毒も使用している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	コロナ禍で直接お話しする機会は減っているが電話での状態報告利用者様の日頃の写真等をお便りと一緒に送ったりと工夫している	/	/	/	現在のコロナ禍において、面会制限が設けられているため、家族が事業所の行事に参加することを中止している。コロナ禍でも、屋外から窓越しで十分な間隔をとって面会に対応するとともに、県の感染対策の緩和に伴い、事業所では訪問調査月の前月の10月から制限を設けた上で、居室等での利用者と家族の面会を再開し、喜ばれている。また、毎月「ひだまり新聞」を発行して、利用者の事業所内での日常の様子を伝えるとともに、担当職員が書いた手紙を添えて、家族に送付している。さらに、コロナ禍以前は家族会を開催し、交流をすることもできていた。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	コロナ禍で面会が中止されているが窓越し面会にて元気な利用者様の様子を見ていただいている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	コロナ禍に入る前は家族会や夏の催しドライブお花見等行っていたが今は一切中止している	○	/	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月月初めに請求書と一緒に頼りとひだまり新聞を同封している。日頃の様子や取り組みが伝わるように工夫している。	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族様の思いを話しやすい環境や雰囲気にする為、家族と良好な関係を築いている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	コロナ禍に置いて以前より本人の状態の変化の理解が家族の方も難しくなっているがお手紙写真等工夫しながら家族様と本人の良好な関係の支援に努めている	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	ひだまり新聞を活用し情報提供を行っている	○	/	◎	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	家族会を年に2回家族同士が食事しながら話せる場を作っていたが今は中止している	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	少しでもリスクのある事は職員同士で話し合いよいケアができるように家族様にも相談している	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	職員が積極的に家族に状態をお伝えする事で家族からも思いや意見を聴かせていただいている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	所長、リーダーにより資料を添えて理解して頂けるような説明を心がけている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	グループホームでの生活が困難となり退居になる場合、家族や医療機関と充分に話し合い、状態を説明して納得して頂けるように努めている	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	重要事項説明書の改定時に訂正、明記し改正点を明確にしている。改正したものを配布したうえで同意を得るようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	事業所の設立前より地域の方とお話を行っており役割や目的について説明し理解を図れるように努めている	/	○	/	コロナ禍以前は、事業所として、地域住民や近隣の保育園児、高校生と交流する機会があり、地域との交流を深めることができていた。また、事業所1階には地域交流室があり、地域住民にも開放して、気軽に使用することができるなど、法人・事業所として、地域における公益的な取組みが行われている。さらに、地域住民から、コロナ収束後には早期の地域交流室での活動の再開が待たれている。加えて、現在のコロナ禍において、中止となったフェスタや地域行事が多いものの、地域の中に事業所は浸透しており、地域住民から野菜の差し入れをもらうなど、可能な範囲で地域との交流を継続している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	日常生活で近隣を散歩する際には挨拶を心がけている。地域への活動の参加についてはコロナ対策により見合わせている	/	×	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	避難訓練に地域の方にも参加して頂き見守りなどの協力を得ている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	地域交流室(ひだまり)があるが地域との交流についてはコロナ対策により控えている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	近隣の方々とは挨拶するよう心がけている。玄関の入り口横のトイレを気軽に使用して頂いている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナ対策により地域交流室でのボランティア等の発表や保育園児、小、中、高校生との交流の機会を中止している。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	コロナ対策により毎年参加している生活文化祭や敬老会等の行事参加を中止しているが作品作りは行っている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	コロナ対策により学校関係の運動会の参加や毎年行っている春の風フェスタでの関係を深めるための取り組みを見合わせている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	コロナ対策により家族や利用者の参加は控えている。地域の人には三密回避の上短時間に心が掛け参加して頂いている	/	○	○	運営推進会議は、利用者や家族、民生委員、高校の校長、保育園の園長、市担当者等の参加を得て、開催をしている。現在のコロナ禍において、利用者や家族の会議への参加は制限しているものの、地域の感染状況に留意するとともに、感染対策を図りながら、他の参加メンバーで会議を開催している。また、会議では利用者の状況や事業所の行事等を報告するとともに、参加メンバーと意見交換をすることができている。さらに、運営推進会議の中で出された意見やアドバイスは、職員間で情報を共有して、可能な範囲でサービス向上に活かしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	現状報告、活動報告、研修報告、ヒヤリハット報告を中心に報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議では意見交換の時間を設け助言や指導を受けたり記録に落とし周知している	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	毎回、奇数月の最終火曜日の14時からと設定することにより事前に参加の調整をしやすくしている	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	毎回議事録を作成し、大洲市へファックスで報告している。職員がいつでも閲覧できるようにしている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	年間研修にて理念についてテーマを掲げて職員全員に周知している				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	玄関の入り口正面や地域交流室に理念を掲示しており来訪時に見やすくしている	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	地域密着サービス協会のリモート研修や法人内研修に参加を促しスキルアップできるように取り組んでいる				事業所では、内部や外部の研修で学ぶ機会があり、職員のスキルアップや、サービスの質の向上につながっている。また、法人・事業所として、職員の産休や育休などの取得や、福利厚生にも努めるなど、安心して仕事を続けることができる働きやすい職場環境づくりも整備されている。さらに、法人・事業所には職員の意見を吸い上げられる仕組みができており、管理者等が検討して、法人としても対応できるようになっている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月行うカンファレンスの場でテーマを決め資料作り発表をしていく中でスキルアップできるように取り組んでいる				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	各職員に目標管理シートを作成させチームの目標や個人の目標を明確にして意識的に向上心が持てるよう努めている				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	コロナの影響により地域密着サービス協会や地域病院の研修会に参加できない状況にある。グループホーム連絡会の参加により各施設の取り組み情報の共有はできている				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	各事業者より職員を呼び意見や希望を聞き取りしている。所長会を行い意見を吸い上げ対応している	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	年間研修にてテーマを決め虐待防止について学び意識して防止できるように努めている				職員は研修等で虐待防止を学び、理解をしている。また、利用者への虐待や不適切なケアについて、具体的にどのような行為が該当するなどを確認するとともに、不適切な行為が発見された場合の対応方法も職員に周知されている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	月に1回カンファレンスや日々のミーティング申し送りの場でケアについて話し合っている				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	虐待が発見された場合の手順や対応については職員が見やすい場所に掲示して分かりやすいようにしている				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日報の内容や日々のミーティングの中から日頃より適切なアドバイスができるように心がけている				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束適正化委員会を3か月に1度行い、資料を配布して周知徹底している				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	日々のミーティングの中から身体拘束に当たるのか検討しながら最適な方法を考えながら対応している				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	コロナ対応により、家族会での周知は難しくなっている。家族の面会時に説明して都度理解して頂いている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	研修等を通して成年後見制度の理解に努めている				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	対応が必要と思われる家族に対して、相談を受けたり情報提供に努めている				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	後見人制度の利用は1名有り面会や連絡を通じて連携に努めている				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	急変のリスクが高い方に関しては特に対応、別に書き出して目に付く場所に掲示しスムーズに対応できるようにしている				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的に行われているが消防署や本部での研修に参加して皆に周知している				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	小さなことでもヒヤリハットにまとめて閲覧し職員間で情報共有し再発防止へ取り組んでいる				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	カンファレンス時に個人個人について詳しくチェックをして対応を検討したり朝のミーティングや夕方の申し送りでも様子を細かく伝えて事故防止に繋げている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルはないが年に2回苦情処理委員会を行って、外部や他部署の意見を求め会議録により参考にしていく				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	現在の所苦情は寄せられていないが苦情対応一覧に基づき苦情が寄せられれば対応を検討していく				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	ヒヤリハットや事故報告書を基に速やかに家族様へ内容や対応を行い職員へも再発防止を求め徹底している				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日頃の仕草や発言に注意してその都度声掛けし対応をしている			◎	日々のかかわりの中で、利用者の意見や要望を聞くほか、職員の気づきや、利用者の表情から汲み取ることもある。家族からは、職員が随時電話連絡を行い、意見を聞くよう努めている。また、日頃から管理者は現場で職員と一緒に業務に従事しており、職員の意見や提案を聞きながら対応をしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	家族会や電話での相談に応じられる体制はあるが家族会はコロナ禍の為開催できていない	◎		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約時に説明してから重要事項説明書をお渡ししている。掲示板にも掲示している				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	ほぼ定期的に来所され職員や利用者との交流をされている。2ヶ月に1回程度。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	毎日のミーティングや職員が多く集うカンファレンス認知症専門研修時に皆の意見を求めより良い対応を検討している			◎	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価結果により課題をスタッフ全員に周知しカンファレンスやミーティングにて取り組みを行っている	/	/	/	外部評価の自己評価は、ユニット毎に管理者を中心に作成している。サービスの評価結果は、職員間で課題等を話し合い、目標達成計画にも取り組んでいる。また、評価結果は運営推進会議で報告しているものの、取組み状況のモニターの活用までには至っていないため、今後は家族や会議の参加メンバーにサービスの評価の取組みを理解してもらうとともに、モニターの協力を呼びかけたり、目標達成計画の取組み状況を随時報告をしたりするなど、意見を取り入れながらサービスの質の向上につながることを期待したい。さらに、利用者家族等のアンケート結果から、サービス評価の取組みに、十分な家族の理解が得られていないことがうかがえるため、今後は、理解が得られるような報告などを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価結果を基に現状の把握と課題への取り組みを明確にして対応している	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価結果を踏まえ実現可能な目標を設定して取り組んでいる	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進メンバーは市の職員、利用者の家族にも参加して頂いており外部評価の結果についても理解して頂いている	x	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	ケアカンファレンスや運営推進会議などで報告し成果を確認している	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	まだまだ改善するところはあるものの最新の情報を取り入れ取り組んでいる	/	/	/	年に数回、日中や夜間帯などを想定して、避難訓練を実施している。また、安全で迅速に利用者が避難できるよう、事業所の避難場所を職員間で検討して、事業所の近隣にある長浜高校に許可を得て、避難できる状況となっている。さらに、訪問調査月の翌月には地域との合同訓練も予定されており、より具体的な災害時の避難方法の話し合いや、協力支援体制が整備されることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	消防署立会いのもと主に夜間想定での様々な災害を想定して訓練を実施している。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	業者による定期点検を行っている。非常食、備蓄水についても期限内に消費して新しいものと入れ替えている	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	長浜高校を避難場所として裏門より2階へ外階段を通って避難できる様、校長先生と話し合い許可を頂いた	○	◎	◎	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	日中であれば長浜高校生も避難への協力が得られるとの事で合同での避難訓練、消防署立会いのもとに行う予定がある。	/	/	/	
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	コロナ禍の中、十分な活動は出来ていないがチラシ作成など来所者に見て頂くよう準備はしている	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談があれば応じる事が可能、対応が困難な場合は市への相談に繋ぐ事としている	/	x	○	事業所では、市行政や地域包括支援センター、他の事業所等と普段から情報交換を行い、連携を図ることができている。コロナ禍の収束後には、管理者は、「地域交流室での活動を再開するとともに、さらに地域のケア拠点として、地域住民が気軽に来訪して相談できるような事業所を目指していきたい」と考えている。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	コロナ禍の中で終息すれば地域交流室を活用していく	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	長浜高校生4名の職場体験を実施する予定がある。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	市のグループホーム連絡会に参加して市や他事業所との情報交換を行い連携を密にしていたがコロナ禍で中止となり書面や電話、ファックスにて情報を頂き活動している。	/	/	○	